

授業科目 臨床生理学 II

【担当教員名】 生駒 俊和		対象学年	3	対象学科	臨床
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○				
【概要・一般目標：G10】					
1. 生体の神経・筋系、呼吸器系の生理機能変化の記録法と生理機能評価法に関する知識を習得する。 2. 超音波検査の正常画像と疾患の特徴的な画像の判別法を理解する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
1. 正常脳波の特徴や異常脳波の所見、及び脳波の賦活法を説明する。 2. 誘発電位検査法の目的を説明する。 3. 筋電図検査の正常波形と異常波形を説明する。 4. 神経伝導速度検査誘発電位検査法の目的を説明する。 5. 換気機能検査を説明する。 6. 血液ガスのデータを評価する。 7. 超音波像の正常画像と異常画像を説明する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	脳波 1 発生機序、導出法、基礎的要素			1	講義
2	脳波 2 正常脳波			1	講義
3	脳波 3 賦活法、異常脳波			1	講義
4	脳波 4 誘発脳電位			2	講義
5	筋電図 1 筋電図検査の基礎事項、正常波形、異常波形			3	講義
6	筋電図 2 神経伝導速度			4	講義
7	呼吸器系 1 肺機能検査の基礎事項、換気機能検査 1			5	講義
8	呼吸器系 2 換気機能検査 2			5	講義
9	呼吸器系 3 血液ガスの基礎事項、ガス分析			6	講義
10	呼吸器系 4 酸塩基平衡			6	講義
11	呼吸器系 5 データ評価、基礎代謝			6	講義
12	超音波検査 1 超音波の基礎、腹部超音波走査法			7	講義
13	超音波検査 2 腹部超音波像正常画像			7	講義
14	超音波検査 3 腹部超音波像異常画像			7	講義
15	超音波検査 4 体表臓器、泌尿器			7	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		臨床検査学講座 生理機能検査学 第3版	大久保 善朗 他	医歯薬出版	2010・6,930円
参考書		臨床工学講座 生体計測装置学	石原 謙	医歯薬出版	2010・4,830円・2010年3月
その他の資料		配布資料			
【評価方法】			【履修上の留意点】		
講義中に実施する小試験(30%)小試験は追試験、再試験の評価にも適用する。講義欠席の場合は小試験は0点とする。定期試験(70%)定期試験後の再試験は小試験で50%未満の場合は再試験の対象者から除外します。			生理学の内容を理解して受講のこと。略語や専門用語が沢山でてきます。とまどうかも知れませんが根気よく努力をして、知識を確実にして行って下さい。各種検査の検査法と波形の判読の流れを理解すること。不明な点は必ずその場で解決すること。		